

4 . 行動記録

12/27 晴れ

コースタイム
19:45 集合
20:30 チェックイン
21:00 集合写真撮影
21:50 出国
22:50 搭乗

集合場所には、既に見送りの人も含めてデンソー山岳部の人ばかりが出来ていた。黒澤さんからパスポートを受け取り、チェックインカウンターへ向かう。3時間前集合だったにも拘わらず、すごい数の旅行客の列で30分も待った。その間に、病床の藤田部長へのエールと登頂の思いを込めて全員で色紙に寄せ書きをした。記念撮影をし、見送りに

来てくれた石井さん始め片山さん、芦田さんらと健闘を祈る硬い握手を交わし、出国ゲートへ。搭乗時間までの短い間、思い思いに過ごし搭乗。機内の席は別々であったので、それぞれの思いを胸に秘め眠りについた。(長島 記)



(中部国際空港にて、見送りの方と)

12/28 晴れ

コースタイム
5:20 ドバイ着
10:05 ドバイ発(ケニアへ)
14:20 ケニア着
15:15 空港発
15:45 インターコンチネンタル着

ドバイは大きな空港で、空港内の店も充実していた。搭乗ゲートから飛行機まで、滑走路を連絡バスで移動する。滑走路から見るドバイ空港の景色は、とても平坦で広くて、地の果てまで滑走路が伸びているようだった。空港の塀の向こうは砂漠だと金子さんが言った。気温は20度。乾燥。

快晴。砂漠の砂埃で空は霞が掛かっているようだ。ナイロビ空港に到着後、入国手続きの際「ジャンボ」と初めて話しかけられ、内心心が弾む。荷物を全員無事受け取り、現地ガイドのチャールズと合流。気温は28度くらいで乾燥していて暑くは無い。空港からホテルへは車で25分の移動。ナイロビの議事堂前のホテルで、立地条件は最高だったが、たまたま昨日は選挙で本日(28日)開票されるという事で、市内は停電や暴動の可能性があるとので外出禁止となる。食事をとり、自室へ戻りゆっくりくつろいで就寝した。(長島 記)



(ケニアに向けて搭乗)



(チャールズさんと)

12/29 晴れ

コースタイム
6:00 起床
8:00 インターコンチネンタルホテル発
10:00 ナマンガ(ケニア出国)
11:10 タンザニア入国
14:10 アリユーシャ通過
14:35 インパラレストラン
17:00 モシ通過
15:10 マラング カプリコンホテル着

ナイロビコンチネンタルホテルでぐっすり眠る。ナイロビ一番のすばらしいホテルとのことで、とても快適であった。しかし、外の治安は良くないということと、選挙で警備が厳しいため、ホテル以外はどこにも行っていない。

4台に分乗してホテルを出発。途中でSTARというコンビニに立ち寄り、昨夜のカジノでの大戦果をタンザニアに還元すべく、



(インターコンチネンタルホテル前にて)

く、金子隊長が全員に気前良くミネラルウォーターを振る舞ってくれる。走行中の景色は、日本にはなかなかない、広大な景色が広がりだす。マサイ族などがいたるところに出てくる。

写真を撮ってはだめというガイドの言葉で、撮りたい気持ちを抑える。ケニアの国境手前の土産物屋で、休憩をとる。入り口にたくさんきれいな花が咲いている。初めての現地の人とのふれあいがある。土産物屋の店員さんたちと、仲良く写真を撮ったりする。ケニア国境で、出国手続きをする。続いて、タンザニアの入国手続きを終える。タンザニアに入ると、道がケニア側より少し凸凹が多い気がする。走り始めると、途中で、道路を亀が横断していたり、シマウマの子供がいたりした。車を止めて、皆が一斉にデジカメのシャッターを押す。



(道路を横断する陸亀)



(シマウマと現地の子供)



(遠くにそびえ立つキリマンジャロ)

しかし、シマウマは、足をけがしており、少し痛々しそう。これからどうして生きていくのであろう。途中、大きな町アリユーシャを通過。その後、レストランで豪華な昼食を食べる。キリマンジャロビールを飲む人もいる。プールで泳いでいる人もいる。ここは南国だ。マラングに向かう途中で、先頭車がパンクするが案ずるまでもなく、運転手は恐るべき早さでタイヤ交換を済ませる。ここではパンクは日常茶飯事らしく手慣れたものである。まもなく、かなたにキリマンジャロの頭だけが雲の上に見え始めた。あれが、キリマンジャロだ！明日からの登山活動に思いを馳せているうちにカプリコンホテルに着く。南国の雰囲気漂うすばらしいホテルだ。しかし、そう思ったのもつかの間、部屋に入るといきなり停電。懐中電灯が早速、必要になる。道理で室内にローソクとマッチが置いてあるはずだ。食事が終わったあとには停電も何とか回復。ホテルはシャワーのみ。やはり、風呂につかりたい。しかし、山に入ればシャワーもなくなるので、そこはシャワーで我慢。この日は一日車の移動で疲れたので、夜はぐっすり眠る。(伊藤隆 記)

12/30 晴れ

コースタイム
7:00 起床
9:45 カプリコンホテル発
10:00 マラングゲート着
11:15 マラングゲート発
12:10 休憩 2190m
13:10 昼食 2350m
15:00 休憩 2645m
15:45 マンダラハット着
16:45 高度順応出発
17:05 マウンジクレータ着 2800m
17:55 マンダラハット着

7時起床だが今日からいよいよキリマンジャロを目指して登山すると思うと6時には目が覚めてホテルの庭を散歩した。少し肌寒い感はあるが快晴で爽やかな朝である。8時から朝食をとり、ポーター用の荷造りをして、9時45分ホテルを車でスタートした。マラングゲートへは5分ほどで到着した。荷物をポーターに渡し、入山手続きをしている間に案内板を見ていたら、10歳以下の子供・ガイド無しの登山は禁止することが書いてある。今回ガイドやポーターを含めると総勢40名の大部隊での登山となった。



(ゲート入口 さあ出発)



(荷物を運ぶポーターたち)



(元気に歩くメンバー)

11時15分登山口のゲートを通り樹林帯を歩き始めるとバンダナやカメレオン写真を売り込む子供に1つ1つ1ダラー、1ダラーとせがまれるも無視して先へ進んだ。赤道直下ではあるが標高が高いせいか爽やかなスタートである。

13時10分道が整備された林道へ出た所で昼食を食べた。この林道はポーター専用道路で広く歩きやすくなっている。どうりでここまでポーターと会うことが無かったはずだ。弁当はサンドイッチ。ゆで卵、ジュースなどでとてもおいしかった。

15時45分、今日の宿泊地マンダラハットのロッジに到着。夕食前に高度順応の為に標高2800mのマウンジクレータに出かける。道中樹林の中に白い尾のホワイトコロブスやブルーモンキーと出会い皆、大はしゃぎでカメラのシャッターを切っていた。30分程でクレータに着いた。クレータにはフカフカの草が生え思わず大の字になって寝そべると青空と薄い空気で眠たくなってきた。

ロッジに帰り18時30分スパゲティーやマンゴーの夕食を美味しく食べた。

夕食後、空には満天の星が輝き、今までにこんなに星の多い綺麗な夜空を見たことが無い。天の川、北斗七星、オリオンなどを次々発見し楽しかった。

南半球では月が90度反転して見えると聞き、なるほどとガッテンした。

また深夜には南十字星を見ることが出来ると聞きトイレに起きる時を楽しみにシュラフに絡まって眠りに着いた。(上田 記)

12/31 晴れ

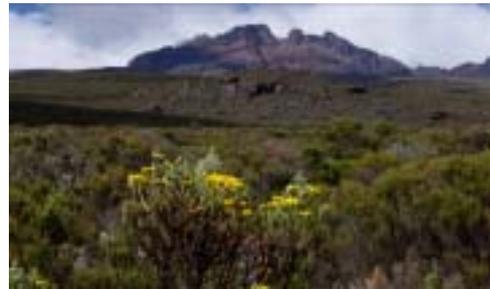
コースタイム
6:00 起床
8:15 マダハット発 2700m
9:15 一本 2845m
10:15 一本 2985m
11:30 一本 3195m
12:15 一本 3275m
12:50 昼食 3395m
14:40 一本 3560m
15:40 和ハット着 3720m
16:25 高度順応出発
16:45 一本 3790m
17:30 一本 3940m
18:25 和ハット着
注) 1本 小休止の意

高山病対策の為、温かいテルモスのティーを飲んで、数時間眠ってはヘッドランプを手にトイレへ行く。満点の星空を半月が照らす。南十字星も微笑んでいる様だ。空が白みだすと、寝ている事ができず、皆ごそごそし出した。予定時間より30分も早い、「起きるぞ！」の長老の一声で、6時起床。ポーターへ預ける荷物の整理に取り掛かる。7時過ぎの朝食が美味しい。皆、食欲が旺盛だ（勿論、私も）。軽く準備体操を、各自行い、8時15分に出発。樹林帯の中を、冗談も軽く賑やかに歩いていく。先を急ぐポーター達に道を譲り、ポレポレ（ゆっくり）歩く。1時間ぐらい歩いて一本。全員、調子も良い様だ。5分ばかりの小休止後、しばらく行くと草原へ。残念！キリマンの方へ雲がかかり、左

側の裾野しか見えず。右手のマウエンジの方がカッコいい。「ジャンボ！ジャンボ！」行き交うポーター達と挨拶を交わす。突然、「道空けて！」の大声。1輪車付タンカに載せられた人が6人の現地人に支えられ、駆け降りてきた。高山病らしい。顔は真っ青、眼を閉じて意識があるのか？ないのか？分からない。ダンダンと、もの凄い振動なのにピクリともしない。あ～はなりたくない。



(雲がかかるキリマンジャロ)



(マウエンジ峰)

全員、無事に登れます様に！降ろされた人も回復します様に！3200mぐらいから何か？眠気を感じ生あくびが出だした。高度障害かな？ゆっくりと深呼吸したり、“ピュッ、ス～ピュッ、ス～”酸素を意識した呼吸法を試してみる。眠気が遠のき、再び元気になったら、待ちに待ったピクニックランチタイム。美味しい！この頃から食事が進まない人がぼちぼち出だした。頭上に雲が蓋って少し寒い。早々に片付けて、歩き出す。ケルンの所で一本取り、巨大なジャイアントセネシオが姿を見せる様になり、15時40分にホロンボハットへ到着。小休止後、高度順応に出かけ、キリマンジャロにかかっていた雲が取れてやっと頂上が見えた。（津田 記）

1/1 晴れ

コースタイム		
5:40	起床	
6:20	初日の出	
8:00	朝食	
8:50	和氷ハット出発	3720m
10:10	休憩	3910m
11:05	ラストウォータポイント	4010m
12:00	休憩	4120m
13:10	休憩	4300m
14:30	休憩	4370m
16:00	キボハット着	4703m
17:00	高度順応出発	4820m
18:00	キボハット着	4703m

東の空が茜色に染まっていく。朝日がひょっこりと顔を出す、初日の出だ。3720m という高さから眺めていると、不遜にも朝日を見下ろしているかのような錯覚におちいってしまう。振り返ると、北西の方向にキリマンジャロの頂が見える。我々はそれに近づくため、8:50に出発する。



(初日の出)

今日は、標高 4700m にあるキボハットを目指す。4700m といえば、富士山の標高を遥かに上回る高さだ。未知の領域に足を踏み入れることになり、高山病がどのように影響してくるのか、不安がよぎりながらスタートした。しかし、そんな不安はどこへやら、空は青々としており快晴、汗ばむ陽気で気持ちのよい山歩きとなった。1時間ほど歩くとなだらかな道が続くようになり、周りに高い木々など全く見当たらなくなった。視界を遮るものがなく、キリマンジャロの頂が近くに見える。一同、その光景にはしゃぎながら、キリマンジャロの頂を背景に写真を撮る。11 時頃、標高 4010m 地点のラストウォータポイントに到着し休憩をとる。いよいよ高山病の影響か、行動食を口にできない者もいた。



(キリマンジャロを背景にチーズ!)



(ポーターとすれ違うメンバーたち)

また、酸素不足があらわれ始めたのか、呼吸が深くなる。さらに進み、4300m、4400m、4500m と標高を上げていくにつれ、呼吸はさらに深くなり、前後の人の呼吸が聞こえるほどに、また歩行もゆっくりとなった。キボハットが見えてきた。キボハット直前は、今日一番の急な坂となっていた。ガイドがS字を描きながら登り、我々がそれについていく。ついに、高山病の影響で、嘔吐を催す者が出てきた。また、キボハット到着後のティータイムでは、食欲のない者が続出し、いよいよ過酷な状況へと足を踏み入れることとなったのである。(吉田 記)

コースタイム

1/1 日

23:00 起床

23:30 朝食

1/2 日

0:15 キボハット発

1:10 トレーニング岩

2:30 インディアポイント 5065m

3:40 ウリアムズポイント 5300m

4:25 ハンス・メイヤーズケイブ 5393m

6:40 頂上直下

7:10 ギルマンズポイント着 5681m

9:30 ウフルピーク着 5895m

11:00 ギルマンズポイント

12:40 林ハット着

17:20 和ハット着

すでに何人かは4700mのキボハット小屋で高山病の症状が出ていた。ある者は頭痛が、ある者は吐き気が出発前の空気を重くしている。しかしツアーリーダーの黒澤さんはこの状況を大方読んでいた。ダイヤモンドックスやバファリンの服用を指示して全員が出発する。満天の星空は溢れんばかりに輝いている。油井さんが南東の空にひと際輝く「南十字星」を教えてくれた。ジグザグのルートヘッドランプの灯りで進む。アシスタントガイドのダグラスが“ポレポレ”と高度を上げていく。出発前の睡眠不足のせいで足元の焦点が危うい。又、猛烈な眠さでアンバランスな足の運びを繰り返しながら登高を続ける。歩行速度はそんなに遅くないと思っていたがハンス・メイヤーズケイブ(5393m)で予定より1時間の遅れがあり、リーダーからウフルピークへの登頂を考えてスピードアップしたい

ためパーティを二分したいと提案があり、選択は個人の判断に委ねることになった。故意か偶然かスピードアップ組は現役メンバー、ポレポレ組はOBメンバーの2パーティが構成された。最初、現役パーティに同行するつもりであった渡辺さんは歩き始めてすぐにOBパーティに戻っていった。「いつものなべさんらしくないな。これも高度のせいか」とその時は不思議に納得した。

以降は現役パーティのウフルピーク登頂を中心に記述する。首を上を思いきり傾けた辺りに先行する他の登山隊のヘッドランプが星空に溶けるように光っている。予想以上に傾斜のきつい登りである。

6時20分、マウエンジの右肩辺りに日が昇る。

少し朦朧とした気分の中で習慣のように手を合わせるが、日本の山のような初日の出の感慨はない。伊藤千佳子が遅れ始めるが後続への吸収を危惧したチーフガイドのフレデリックが励まして同行を判断する。上部に行くほど傾斜はきつくなる。時々ガイドたちがヨーデルに似た声でお互いのコミュニケーションを取っている。7時10分ついにギルマンズポイントに立つ。火口に湧く雲に太陽のいたずらでブロッケンのお化けが出た。キリマンジャロからのプレゼントか。ここから更に雪の付いた5800mの火口を回り2時間で5895mウフルピークにたどり着く。ここに1年をかけて計画をこなしてきた集大成が実を結んだ。ピークでは部旗を掲げて写真を撮り、



(ウフルピークにて)

堅い握手でお互いの健闘を喜ぶ。北側の階段状の

氷河も南西に続く氷河もかつて、20年前に訪れた大矢の記憶に照らすと随分少なくなったようだ。地球温暖化の影響はアル・ゴアが言うように確実に進んでいる。5800mの高度に長時間身をさらすことにより多くの者が吐き気を催す。長居は無用だが思うように行動が進まない。雪の付いた道は火口への滑落を危惧させるが、長島や吉田がガイドのサポート



(ギルマンズポイントにて)

を受けて慎重に下山を始める。下り始めると体も少しづつ楽になる。下部の砂走りならぬ砂利走りでは重力に任せて足を出しダイレクトに下って行く。先行者の砂塵を浴びながらキボハット小屋に着くと黒澤さんが握手で出迎えてくれた。先に下山したOB隊と再度、健闘の握手で登頂を祝う。本日はここよりさらに3時間程歩き3700mのホロンボハットまで高度を下げる。メンバーはサドルを吹き抜ける寒風に言葉少なく進むが、時折登って来る他国の登山者やポーターに“ Good luck ” “ ジャンボ ” と挨拶するときの胸中は登頂の喜びで晴れやかである。

(町田 記)



(山頂に積層している氷河)



(キリマンジャロ山頂から見るマウエンジ峰)

以下、OBパーティの行動を記す。

コースタイム	
4:00	ハンス・メイーズケイブ
4:25	(現役Pと別れる)
7:58	ギルマンズポイント
9:32	ハンス・メイーズケイブ
11:00	キボハット着

ハンス・メイーズケイブで現役パーティと分かれ、彼らとは平均年齢で20歳上回るOBパーティは新たな気持ちで、ゆっくり、ゆっくり(ポレポレ)ペースで上部を目指す。しかし、闘志はいささかも衰えることない。夜明け前の寒さの中、指先の凍えを揉み解しながら歩を進めるも塚本、上田さんのペースは更に乱れがちになってくる。ザックはガイド、

ポーターに預け、空身の2人だが何せここは5000m以上の標高にあり、高度の影響が著しい様である。それでも必死に先頭に追いつく姿には鬼気迫るものがある。やや余裕のある残りのメンバーはガイドのダグラスを先頭に油井、三矢、渡辺、佐溝の順で高度を稼いでいく。ルートは徐々に傾斜を増してくるがよく整備され明確で富士山のルートより歩き易いくらいだが、皆の吐く息もだんだん荒くなってくるあたりはさすがにキリマンジャロか。あたりが明るくなり夜明けを迎え、ヘッドライトの灯りから朝日を浴びるようになると漸く寒さも和らいで指先の痺れも解消してきた。

更に一步、一步とゆっくりとしたペースで歩いているうちにひょっこりと頂上の一角であるギルマンズポイントに飛び出した。先頭が到着し、しばらくするとツアーガイドの黒澤氏にアンザイレンされた上田さんが、さらに塚本さんが大きく喘ぎながらも元気に辿り着き、これでOBパーティ全員が無事に登頂を果たしたことになる。全員で固い握手を交わし、部旗と一緒に写真に収まる。ここから最高点のウフルピークまでは往復で3時間の距離とのことであるが、今からでは時間的



(ギルマンズポイントにて)

に無理であり、それは現役パーティにお任せすることとし、OBパーティはこの地点を今回の最高到達点とし、周囲の景色を十分に満喫した後、安全を期して早々に下山することにした。上田さんは依然として、体のバランスを崩すほど高度障害がひどいため、アンザイレンを解かずそのままの状態最後まで最後尾を降りてくる。それでもハンス・メイヤーズケイブへは割合短時間で着くことができた。ここからはザイルを解いた上田さんをその他のメンバーがサポートしながらゆっくりとキボハットまで下り、現役パーティの帰りを待つことになった。(渡辺 記)



1/3 晴れ

コースタイム

7:00 起床
10:00 ホロンボハット発
11:20 一本
12:45 樹林帯に入る
13:15 マンダラハット
15:10 ポーター専用道分岐
16:40 マランゲート
17:50 カプリコホテル

態状態からは着実に回復した。体調の悪い人は一人もなく、全員元気に朝食を摂る。陽気なコック、ユダがモーニングティーを持ってきた。彼声を聞くと、こっちまで元気になってしまうから不思議だ。

ホロンボハットは、カラスが非常に多い。残飯をあさりに来るものと見える。

キリマンジャロをバックに記念撮影。名残惜しみつつ、全員登頂の達成感を胸に、キリマンジャロを後にする。左手にマウエンジ峰、右手下にマウ



(ホロンボハットにて)

ンジクレータを見て、高山植物の花を楽しみながら下っていく。例によって、サドル方面には谷風の上昇流によって層雲が湧き上がって来る。足取り軽く下ること3時間でマンダラハットに到着。ここでのんびりと昼食を摂る。キリマンジャロでの食事

もこれが最後、しっかりと味わって食べる。遮るものがなく、熱帯の日差しは強烈。日焼け止めを重ね塗りする。昼食後、小屋の前でオールスタッフが勢ぞろいして、キリマンジャロの歌や岳人の歌を一緒に歌う。スタッフとの別れを惜しみつつ、マンダラハットを



(我々のポーターたちと)



(着いたぞ!!)

後にして、長い樹林帯を抜けてようやくマランゲートが見えてくると、長かったキリマンジャロの道もついに終点だ。全員登頂と無事の下山を祝し、皆で握手し合う。このショップで各自お土産を買った後、車で10分でホテルカプリコンに帰ってきた。5日間の山旅の垢をシャワーで洗い流し、夕食にて“全員登頂”を祝って乾杯。ここに、我々のキリマンジャロ登山は幕を閉じた。(大矢 記)

昨日の頂上アタックの疲れでぐっすり眠ることができ、非常に爽快な気分。日の出を見るために、起床時間より早い6:10に起きてロッジの外に出た。既に早起きの外国人達がカメラを構えて待機している。6:18快晴の空のもと、雲海の中から日が昇る。キボ峰、マウエンジ峰が朝日に染まる。そう言えば、20年前も頂上アタックの翌日に、この同じ場所で日の出を見たなあ。

まだ身体の奥に多少疲労は残っているが、昨日の疲労困



(日の出)

(朝焼けのキリマンジャロ)

1/4 晴れ

社会貢献活動として植樹活動、小学校への文房具、サッカーボールの寄贈・交流会を行ったが、その内容の詳細は別紙「社会貢献活動詳細」に記載する。

1/5 晴れ

コースタイム
5:00 起床
6:00 食事
6:54 モメラロッジ出発
8:45 サファリゲート (出口)
11:10 国境
12:20 休憩(民芸品店)
14:50 ナイロビ空港
17:30 ナイロビ空港発
23:15 ドバイ着

まだ暗い時間に起床する。今日もタイトなスケジュールである。出発準備を終えて食堂に行き朝食をとる。その後、外に出るとキリマンジャロをバックにさわやかな朝を迎えることができた。まもなくランクルの特装車でサファリに出発。ロッジを出るとすぐにキリンの群れに出会う。その後もウォーターバク、シマウマ、バブーン等の動物を見ることができた。ここまできてようやくできたフリータイムでアフリカらしさを満喫



(サバンナを疾駆するキリン)

している内に、ゲートに到着した。ここからタンザニア国境に向かうが暑さと今までの疲れが出たのか車の中で居眠りをしてしまった。

国境のあるナマンガには昼前に到着。暑い日差しを避け日陰で休む。出国、入国手続を終えてケニアのナイロビへと向かう。途中アフリカの景色を頭に焼き付けながらここでの登山活動やボランティア活動で出会った人たちを思い浮かべながら山旅を色々な思いで振り返る。やがてナイロビに到着、ここからは空路でドバイに向かう。ドバイには深夜に到着となった。(竹内 記)



(国立公園を走る)



(サファリを楽しむ)

1/6 晴れ

コースタイム
3:20 ドバイ発
17:10 中部国際空港着

ドバイ空港では出発までにずいぶん待ち時間があり、空港内の土産店を見学して廻ったが大きな空港である。深夜になってもたくさんの人で賑わっている。やがて搭乗時刻になり飛

行機に乗り込む。離陸が1時間ほど遅れたが、中東のドバイを飛び立てば9時間後には中部国際空港である。ふと家族の顔が思い浮かんでくる。機内では2度の食事と雑談、時々居眠りをしているうちに、夕刻に中部国際空港に到着した。キリマンジャロ登山が無事終了満ち足りた気持ちで一杯である。同行したメンバーや出迎えに来てくれた方々と硬い握手をして感謝の気持ちを伝えた。みなさんのおかげで無事にアフリカの山旅が終了した。(竹内 記)



(中部国際空港にて)